

学生、行政等と協働した子育て、子育てにおける 社会関係資本¹⁾に向けたアクションリサーチ

藪田弘美

1. はじめに

「日本の将来推計人口」（2020）では、合計特殊出生率は、新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大以前から見られた低迷を反映し、長期的投影水準は、前回推計の1.44(2065 年)から1.36(2070 年)に低下（中位仮定）。また短期的には新型コロナウイルス感染拡大期の婚姻数減少等の影響を受け低調になっている。推移総人口は、令和2(2020)年国勢調査による1億2,615万人が2070年には8,700万人に減少すると推計されている。

松田（2015）は人口が再生産されないことは社会にさまざまな弊害をもたらすことになる。例えば、子どもの健全な成長への悪影響や、地域の子育ての支え合いを弱め、コミュニティの脆弱化につながる危険性もあると述べている。また、社会の変化が子どもの生活環境も変化させている。かつて、子どもたちは家庭や地域の中で群れて遊んでいたが、親の働き方の変化や都市化によって急速に街の中から子どもの居場所が失われてきている。都市部でも子どもが自由に遊べる空間は過去60年間で100分の1まで減少したという調査もあり、農村部においても自然環境が残っているものの電子メディアの影響等によって遊びのコミュニティが破壊され、年長者から年少者への遊びの伝承が途切れたことで自然遊びをすることがなくなり、遊びの空間量が激減している現状がある（仙田 2009）。つまり、社会の変化が子どもを自然から遠ざけ、人とのつながりを分断してきている。それは、子どもが豊かに育つ環境を減少させていると言っても過言ではないと考える。しかしながら、藪田（2023）は、変化が激しく予測不可能なVUCA（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）の時代を生き抜くためにも、自然環境に身を置くことの意義が見出されつつある。そして、日本の幼児教育の父と言われる倉橋惣三（1912）は「自然ほど幼児の全身性円滑な効果与えるものはない」と記されている。特に自然体験は、子どもの生きる力を支える大きな糧になると述べている。

本実践では、子どもが自ら育っていくことと、保護者が子どもを育てていくことの両方が難しくなっている現代において、子育て、子育てのための社会関係資本の再生に向けたまちづくり、つまり、人とのつながりの中で、子どもが育つ空間とはということに着目し、都市計画のランドスケープ、子ども環境の専門家にレクチャーをうける。その後、地域の子育て支援活動としての自然体験型環境教育プログラムの実施、その効果を検証しモデルを提案することとする。

2. 予備調査

2020 年度実施した自然体験を活用した子育て支援の満足度は 93%と需要が高いことが分かった。そして、2021 年度も児童学科 木谷講師、学生と協働しエンジョイ遊びの広場を実施した。併せて、参加者に外遊びに関する意識調査等、今後の活動の方向性を見いだすためのアンケート調査を実施した。その結果を本実践の予備調査として位置付ける。本実践活動の予備調査として値する項目のみの結果を以下に示す。

【調査協力者の属性】

1. 居住地

津山市内が 18 名、美作地域が 3 名、県外が 0 名、その他が 2 名（勝央、鏡町）だった。

2. 居住地の雰囲気

建物が密集した都市部が 3 名、住宅が多い郊外が 12 名、田畑や山のある農村部が 8 名だった。

3. お子さんの年齢・所属

年齢は、0 歳が 1 名、1 歳が 5 名、2 歳が 7 名、3 歳が 1 名、4 歳が 7 名、5 歳が 4 名、6 歳が 3 名、8 歳が 1 名だった。

所属 は、特になしが 6 名、保育園が 12 名、幼稚園が 3 名、こども園が 0 名、小学生が 3 名だった。

4. 遊びの広場へ参加回数

はじめてが 12 名、2 回目が 9 名、3 回目が 1 名、無回答が 1 名だった。

【お子さんの外遊びに関して】

1. 園や学校以外の時間で外遊びをする日、時間

平日は無回答 5 名を除く、18 名のデータを集計した。外遊びを行う日数のレンジは 0 から 7（日）であり、平均は 3.00 日（ ± 2.00 SD）だった。1 回あたりの外遊び時間のレンジは 0 から 2.5（時間）であり、平均は 0.99 時間（ ± 0.62 SD）だった。

休日は無回答 4 名を除く、19 名のデータを集計した。外遊びを行う日数のレンジは 1 から 2（日）であり、平均は 1.61 日（ ± 0.48 SD）だった。1 回あたりの外遊び時間のレンジは 1 から 4（時間）であり、平均は 1.97 時間（ ± 1.14 SD）だった。

2. 外遊びをする場所（複数回答可）

家の庭や周りが 18 名、友人の家の庭や周りが 2 名、公園などの遊具のある広場が 13 名、園庭や校庭が 4 名、川や森など自然の場所が 6 名、その他が 2 名（プール、子育て広場）だった。

3. 子どもが遊ぶ仲間（複数回答可）

ご自身（親と）が 20 名、きょうだいが 9 名、友だちや友人家族が 8 名、その他が 4 名（祖父母、祖母、支援センターの先生、保育園）だった。

【日々の外遊びに関する考え】

1. 日常の外遊びに関して

各質問項目に対する選択肢ごとの度数、平均および標準偏差を表1に示す。

表1. 日常の遊びに関する記述統計

項目	選択肢（度数）					平均	標準 偏差
	1	2	3	4	無回答		
1 外遊びが好きだ	0	1	6	16	0	3.65	0.56
2 気軽に外遊びをする時間は確保できている	1	4	12	6	0	3.00	0.78
3 気軽に外遊びができる場所がある	1	6	10	6	0	2.91	0.83
4 気軽に外遊びを一緒にできる友達はいる	4	10	7	2	0	2.30	0.86
5 外遊びを通じて自然と関わる事ができている	0	4	8	11	0	3.30	0.75
6 外で遊ぶように促したり、外に連れて行くようにしている	0	2	12	8	1	3.27	0.62
7 総じて、気軽に外遊びができている	0	5	12	6	0	3.04	0.69

注 選択肢の内容は、1：そう思わない、2：あまりそう思わない、3：少しそう思う、4：そう思うである。

2. 外遊びを通じた子どもの発達に関する考え

各質問項目に対する選択肢ごとの度数、平均および標準偏差を表2に示す。

表2. 外遊びを通じた子どもの発達に関する考えへの記述統計

項目	選択肢（度数）					平均	標準 偏差
	1	2	3	4	無回答		
1 関わり合いからコミュニケーション能力・社会性が育まれる	0	1	5	15	2	3.67	0.56
2 遊びを通じて五感が刺激され、感性が育まれる	0	1	3	17	2	3.76	0.53
3 遊びながら考えることで思考力・想像力が育まれる	0	1	4	16	2	3.71	0.55
4 体を動かし、正しい姿勢が身につく	0	3	5	13	2	3.48	0.73
5 体を動かし、浮指（足裏の重心圧）を防げる	0	1	6	14	2	3.62	0.58
6 エネルギーを発散し、精神（情緒）が安定する	0	1	3	17	2	3.76	0.53
7 外遊びは子どもの発達・成長に重要である	0	1	2	18	2	3.81	0.50

注 選択肢の内容は、1：そう思わない、2：あまりそう思わない、3：少しそう思う、4：そう思うである。

3. エンジョイ広場に関する感想

各質問項目に対する選択肢ごとの度数、平均および標準偏差を表3に示す。

表 3. エンジョイ広場に関する感想への記述統計

項目	選択肢（度数）					平均	標準 偏差
	1	2	3	4	無回答		
1 外遊びのコンテンツの種類は十分にあった	0	4	8	9	2	3.24	0.75
2 外遊びのコンテンツはどれも楽しかった	0	4	6	11	2	3.33	0.78
3 新たな外遊びの方法の発見があった	0	1	11	9	2	3.38	0.58
4 子ども同士の交流ができた	2	7	8	4	2	2.67	0.89
5 子どもと大学生スタッフが交流できた	0	2	7	12	2	3.48	0.66
6 子どもを引率した大人同士の交流ができた	2	7	8	4	2	2.67	0.89
7 改めて外遊びの楽しさ・良さを感じることができた	0	0	7	14	2	3.67	0.47

注 選択肢の内容は、1：そう思わない、2：あまりそう思わない、3：少しそう思う、4：そう思うである。

【エンジョイ広場に関して】

1. 来場する前に期待していたこと（複数回答可）

無回答 2 名を除く、21 名のデータを集計した。純粋に外で遊ぶ機会が 15 名、新しい外遊びの方法を学びに 7 名、子ども同士の交流が 5 名、大学生との交流が 6 名、大人・親同士の交流が 1 名、その他が 2 名（子どもと初めて会う人の交流（人見知りが強いので）、子供が楽しんでもくれるコト）だった。

2. （今回を含めて）本遊び広場に参加した回数

無回答 8 名を除く 15 名のうち、1 回目が 9 名、2 回目が 6 名だった。

4. 遊びの広場に参加をしたい頻度

無回答 2 名を除く 21 名のうち、毎日が 1 名、週に 1 回が 3 名、月に 1 回が 12 名、数か月に 1 回が 5 名、年に 1～数回が 0 名だった。

5. 開催を希望する場所（複数回答可）

無回答 2 名を除く 21 名のうち、同じような公共の遊び場が 15 名、田畑・田んぼが 5 名、川や山などの自然が 15 名、その他が 0 名だった。

【自由記述】

1. 本日の遊びの広場に参加した感想（19 回答中 15 回答を抜粋）

- ふだんできないあそびができてたのしそうだった
- どろだんご作りを楽しみにしていました。ふだん家ではさせてやれない遊びができてよかったです。とてもいい機会でした。
- とても楽しく参加できました。ありがとうございました。子どもが初めて会うお姉さんお兄さんとも遊べていて、上手にかかわって下さっているのをかんじました。
- 楽しかったです。段ボールで歩くのおもしろかったです。

- 歩けなくても遊べるものがあってうれしかったです。
- 楽しそうだったので来させてもらいました。
- いつも子供向けイベントありがとうございます。子供も親も美作大学や学生さんが大好きです。これからも楽しみにしています！
- 外遊びができて良い日になりました
- 暑い中色々準備してもらい、大学生も積極的に関わってくれて良かったです。泥だんごもしゃぼん玉よろこんでいました。
- 小さな子どもと参加し、たのしく遊ぶことができました。色んな大人との交流もでき、子どもにとっていい経験となった。
- 外あそびがたんのうでできる機会を与えて下さり、ありがとうございました。
- 楽しかったですが、少々暑かったです。また参加したいです。
- 子供が自由に遊びをみつけてやりたいことができる環境はとても大切だと改めて感じました。
- 楽しめました。もっと昼からみたいです。季節によりますが…
- 外からみて面白そうにみえたので、きてみてよかった。

2. 外遊びについての悩みや考え（12 回答）

- 今は育休中で時間があるので、学校から帰ってから外で遊ばせているが、復帰したらなかなかその時間がとれなくなるのが悩みです。
- 川や山など自然で遊ばせたい気持ちはあるのですが、親自身が遊び方をわかっておらず、安全面の不安があり、企画して下さるととてもうれしいです。
- 親がなかなか行こうとできず…子どもはやりたいんですけど…
- 夏はとにかく暑いので、なかなか外に出られないです…。
- 気温が高くなかなか外に出にくいです。日陰が少ないので困ります。0 歳が一緒なので手が足りません。
- 親子だけであそびや体験に広がりがなくマンネリ。「すごいね！」「それいいね！」をたくさん体験させてあげたいけど…むずかしい。
- 子ども同士もつながりがもてる外あそびがあるとうれしいです。
- 親の体力がついていかない。
- とにかく暑い…
- 夏のあつさ
- 気軽にあそべる場がなく、仕事をしていたら夜しか時間がなくて出れない。

3.実践活動

子どもの外遊びといった生活、地域課題に対しては、多様な主体による協治、地域ガバナンスが求められているという仮説課題から、本実践活動は津山市子どもまつりの事業の一環として実施した。津山市子どもまつり実行委員会（以下 実行委員会）の事務局は津山市教育委員会次世代育成課が担当し、NPO 法人みる・あそぶ・そだつ津山子ども広場、津山市子ども会連合会、美作圏域 児童家庭支援センターつむぎ、美作大学で構成されている。

2022 年度は、2021 年度に実施した予備調査アンケート結果の課題から、身近な公園を舞台に、屋外遊びの機会を提供しつつ、子ども達が自ら考え自分の責任において遊ぶ「プレーパーク」の考え方を市民に広く伝えるための活動に取り組むこととした。

実行委員会での協議の結果、具体的には以下の通り企画・実施した。

(1)「プレーパーク講座&準備会」(市民向けワークショップ)

(2)「つやまプレーパーク」(プレーパーク)

本実践活動から得られた結果は以下の通りである。

(1)「プレーパーク講座 & 準備会」

①実施日 2022 年 10 月 22 日(土) 10 時～15 時

②会場 午前：美作大学、午後：グリーンヒルズ津山

③参加者 23 名(うち美作大学生 8 名)

参加対象者は、プレーパークに興味がある人(中学生以上の市民一般)とした。

④プログラム・内容等

講師に高崎経済大学地域政策学部特命助教、NPO 法人日本冒険遊び場づくり協会情報センター主任研究員の寺田光成先生を招き、11 月 6 日開催の「つやまプレーパーク」に向けて、市民一般へのプレーパークの理念等の浸透を図り、プレーパークに積極的に関わることができる参加者を増やすことを目的に開催した。また、実行委員も一般の参加者とともに参加することで、改めてプレーパークについて学習し、スキルを習得する機会とすることとした。講義の中で寺田氏は、現代における子どもの遊びの実態に触れ、平日に外で遊ぶ日が減っていることや外で一緒に遊ぶ友達がいらない子どもが増えていること、私的空間や公園に遊び場が集中し、自然空間が遊び場となっていないことなどを話された。また、その背景として、現代はリスク社会(不安共有社会)となっており、安心安全に生きていくために、「やっていいよ」という役割分担された人と一緒・場所でないと遊びにくくなってしまっている現状を指摘された。グループワークでは、「子どもが遊ぶ際の不安」や「昔遊んでいた時の禁止事項や、その時難しく感じたこと」等をディスカッションした。プレーパ

ークの概説や現代の子ども達を取り巻く遊びの環境についての解説や、プレーパークの事例紹介等の講演を受けたり、参加者によるグループワークを交えたりすることで、11月6日に開催するプレーパークの内容や、今後津山市でどんなプレーパークを開催したいか等を検討することができた(図1・2)。午後は会場をグリーンヒルズ津山に移し、11月6日開催のプレーパークに向けて、プレーパーク用の道具を入れるための木箱「あそぼX(あそボックス)」の作成や、看板・注意書きの幕の作成を行った。午後の活動には子ども達も加わり、部分的にプレーパークの体験を兼ねることができた(図3・4)。



図1 寺田光成先生による講義



図2 ワークショップの様子



図3 あそぼX製作の様子



図4 あそぼX製作の様子

(2) 「つやまプレーパーク」(プレーパーク)

- ①実施日 11月6日(日)10時~15時
- ②会場 グリーンヒルズ津山地内(「多目的広場」周辺)
- ③参加者 49組(143名)
- ④プログラム・内容等

プレーパークの定義と昨年の反省を鑑みて、遊びのコーナーは作らず、参加者が自主的に遊びを考えることをねらい、自由度を高めた。プレーリーダー2名が子ども達の遊びを

サポートし、一緒に遊び場づくりを行った。また、以下の道具、材料等を会場中央に配置し、原則としてセルフサービスで参加者が自由に遊べることにした。(図5・6・7・8)。

《当日の道具・材料等》

- ・あそぼX（あそボックス：10月22日作成のプレーパーク用具入れ木箱）
- ・ロープ
- ・竹、木材の端材等
- ・ダンボール、新聞紙等
- ・焚火台、薪、火起こし器等
- ・布類
- ・砂場遊び用品（スコップ、塩ビ管、バケツ等）
- ・クレヨン、塗料等
- ・けん玉、こま等

他にもオレンジリボン運動啓発ブースを児童家庭支援センターつむぎが設置し、虐待防止の市民運動を実施した。



図5 プレーパークの看板を
設置している様子



図6 会場中央に
設置している道具・材料



図7 つなわたり・つりばし



図8 たき火エリア

⑤アンケート結果

実施方法は参加者に対してメールを送信し Web 上のアンケートフォームで回答を求めたものである。集計結果は 2022 年 11 月 30 日（水）時点での集計結果は以下の通り（図 9・10・11・12）である。

対象者は 49 人、回答数は 17 件、回答率は 34.6%である。

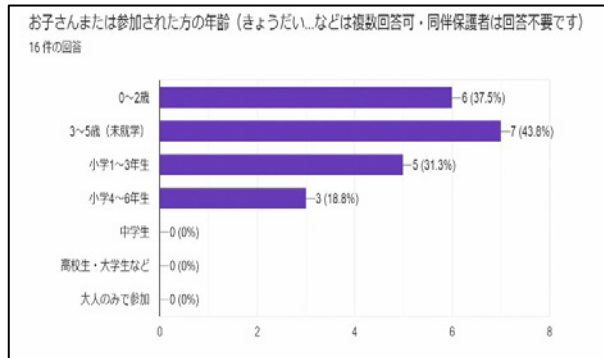


図 9 子どもの年齢

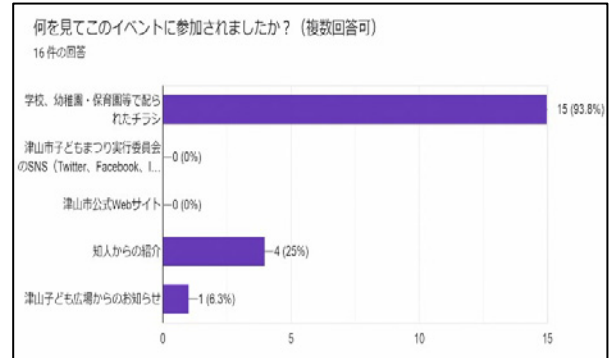


図 10 イベント参加のきっかけ

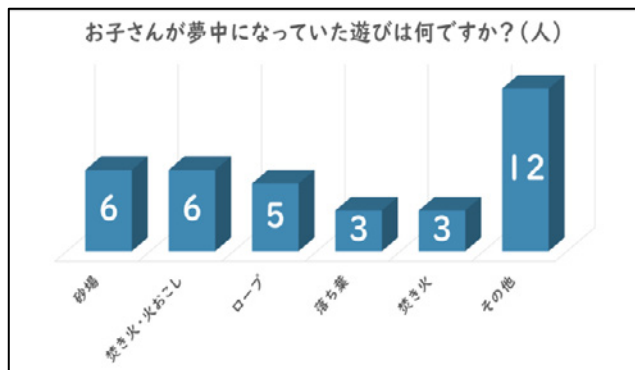


図 11 子どもが夢中だった遊び

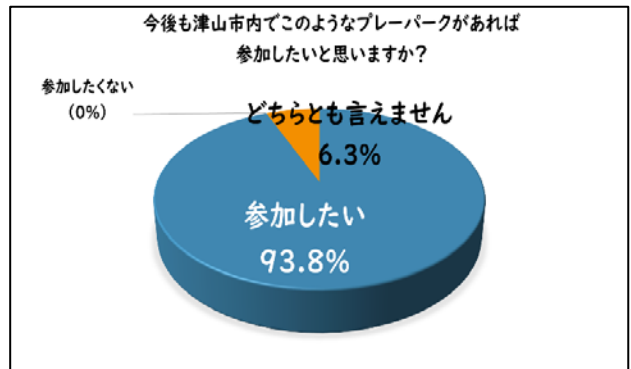


図 12 今後の参加有無

【自由記述】

1 イベントに来てみて、ご自身が楽しかったことは何ですか？（回答は原文のとおり掲載）

- ・子ども達がイキイキ夢中になって遊んでいる姿が嬉しかったです
- ・皆が楽しくしている空間でボーッと昼寝する。
- ・人見知りでブランコやロープ、火おこしには近づけませんでした、いつも来ているグリーンヒルズでたくさんのこどもたちがいろいろな遊びをしているのをこどもと見れたこと。
- ・子供の楽しい姿
- ・普段なかなか体験できない活動を、知っている友達としている子供を見ているのが楽しかったです。

- ・こどもの真剣な姿を見れた。
- ・外で子供とのんびりとしたこと。
- ・よそのおうちのお子さん達も、元気に遊んでいるのを見ることができて、ほっこりしました。

2 本イベントへの感想やご意見、今後、津山市子どもまつりで実施してほしいことなど、ご自由にお聞かせください。(回答は原文のとおり掲載)

・昨年も参加させてもらって今年で 2 回目の参加でした。今年は昨年に比べると規模が小さいように感じました。正直、昨年の方が楽しめました。

・木工遊びでもう少し道具の数を増やしていただけるとありがたいです。

子どもたちはとても楽しそうに遊んでいましたので、来年もぜひ参加したいと思います。

・プレーパークを1か月に1回ぐらいして欲しいです。

・砂場遊びをしていたら、初めましてのお友達も手伝ってあげると言って入ってきて協力して一緒に作っていく様子が、見ていてほっこりしました。

・今回のイベントの様に屋外で自由に遊ぶイベントをたくさん開催してほしいです。山や川などキャンプ場など自然が豊かな場所であると参加してみたいです。開催いただきありがとうございました。

・子供が主役の時間を作っていただけたと思います。スタッフの皆様ありがとうございます。子供が話していた事を書きます。前みたいに沢山のダンボールであそびたかった、木を使って遊んだけど、ボンドではくっつかないからつまらなかった、釘とトンカチでトントンしたかった...だそうです。火で遊べたのは楽しかったようですが、火起こしは難しかったのですぐ止めちゃいました...1本の紐を左右に引っ張ったりするのがやりたかったようです。

学生さん達の交流があったり、ワクワクするようなイベントがあったらいいなあと思いました。

・シャボン玉エリアや、ダンボール工作エリアがまた復活してもらえたら嬉しいです。

・去年同じような時期に、リージョンセンター横でのイベントに参加させてもらいました。今回と比べて前回のほうが小さい子が遊びやすい所が多かったです！その時のどんぐりころころなど挑戦しやすく、楽しかったです。

・今は、習い事などや SNS、ゲームなど、外で遊ぶ機会が減っているので、このようなイベントを、定期的に開催してほしいです。

・今回の絵の具やペンキを使って絵を描いたり、去年あったスライム作りなど、家では汚れてしまうのが嫌でなかなかさせてあげられない事をどんどんさせてほしいです。

・全身思いっきり汚して遊べる体験を沢山実施してほしいです。

・小さい子供達が喜びそう。小学生は少し物足りなかったかもです。

・子供は人見知りが多いので、色んなところにペンキを塗って元気よく遊ぶ子が怖かったようですが、親としてはいろんな遊びをする子たちが見えて参考になって良かったです。

⑥広報

- ・SNSアカウントを活用

実行委員会の Facebook、Instagram アカウントを活用し、各担当者がイベント情報等を随時発信した。

- ・チラシ配布

別紙のチラシを作成し、市内各施設に配布した。市内各幼稚園、保育園（所）、認定こども園、小学校に園児・生徒数分を送付し配布を依頼。併せて、市内公民館、図書館にて来館者への配布を依頼。その他関係団体等（津山市子ども会連合会、NPO 法人みる・あそぶ・そだつ津山子ども広場、美作大学、手作りマルシェ in 津山、sense Tsuyama）へ配布を依頼。

- ・津山市公式ホームページ

イベントカレンダー及び本イベントの広報用ページを作成し掲載。

4.総合考察

本実践では、地域の子育て支援活動としての自然体験型環境教育プログラム（プレーパーク）を実施し、その効果を検証し人とのつながりの中で子どもが育つ空間モデルを提案することを目的とした。研究方法はアクションリサーチを用いた。本実践を踏まえ地域社会と子どもの育ちの関係の潮流を、遊び（自然体験）と社会関係資本を 2 つの観点から整理をしてみる。

プレーパーク講座では、津山市内のマップを利用して三世代の遊びの体験の変化を示した。大きな遊びの変化としては、遊び道具は作る物から買うものへ、遊び空間は、自然から専用の場所へがあげられた。これは、幼少期における自然体験や外遊びの教育的効果が明らかになっている潮流とは反する結果だった。上述したことを踏まえ、①遊びのリスクとサービス化、②創り出す遊びの必要性、③遊びの作法のわかる大人の育成（教授型ではない）というコンセプトでプレーパークを実施した。また、プレーリーダー 2 名の派遣を受け、子ども達の遊びのサポートを依頼した。アンケートの結果をみると、概ね好評であり、屋外遊びの機会として一定のニーズがあることがわかった。つまり、本実践でのプレーパークを通して、自然体験の希望は高く、幼児、児童、保護者が気軽に参加できるプログラムの必要性が明らかになった。併せて、参加者同士の交流が出来たという回答もあり、地域の子育て支援を行うことで社会関係資本が育まれていると考えられる。

プレーパークは、公園などとは違い、遊具など完成されたものが無いことである。大人も見守るだけで手は出さず、自分の責任で自由に遊び、自分たちで変えていくことがプレーパークの哲学である。しかしながら、今回は不特定多数の来場がある公園敷地内での開催であることと、限られた人員での運営体制であったことから、事故防止を最優先する遊びに限定した。アンケート結果をふまえ、次回以降の実施については改めて検討していきたい。

5.総括と実践限界

三輪（2023）は、人は生物学的に群れなければ子育てができない動物と言われている。他の親子や子育てしている兄弟姉妹という群れる環境の中で、まねることで子どもとしても親としても育ってきたと述べている。しかしながら、現在、孤育てという言葉が社会学、児童福祉の分野で耳にすることが多くなり社会問題となっている。この問題を解消するためには現代のリスク社会の中で子どもの外遊びが減少しているという状況把握と課題を明確化し、地域へのコミット方法を連動させながら考えていくことが課題解決になるのではないだろうか。それが現代版の群れた子育て（大豆生田 2007）の構築、社会関係資本に繋がっていくと考える。

子育ては家族のみでできない社会になっており、公として意識しなければならなくなっている現実がある。今後、「子育てするまち」ではなく「子どもが育っていくまち」という視点から、地域全体で多様な人々が子どもの成長のナラティブに関わっていけるような社会関係資本の再構築の必要性もあるが、津山市にあてはめた取り組みの実施には限界がある。

謝辞

本実践にあたり、「つやまプレーパーク」に参加、アンケート調査への回答に応じて下さった皆様に心よりお礼申し上げます。

公開報告研究会発表 PPT 作成にあたり、児童学科 木谷晋平先生には多大なご尽力を頂きました。ありがとうございました。

付記

本実践は、美作大学地域生活科学研究所助成金で実施したものである。なお、2021 年度実施の「エンジョイ遊びの広場」は、福武教育文化振興財団の助成を受けた研究の一部である。

倫理的配慮

本研究は実践と実態把握を中心に進めることから、アンケート調査紙に、研究の目的とデータの取り扱いについて、以下 5 点を示した。①データは統計的に処理され個人が特定されないこと。②研究目的でのみデータを使用すること。③いかなる理由でも本人以外に個人のデータが開示されないこと。④データ提供の可否がいかなることに影響しないこと。⑤いつでも研究参加を拒否できることである。提供を拒否する場合は、質問紙のチェック欄にチェックを入れるよう依頼した。映像利用に関しては、受付時に使用不可の確認を行った。

注

1. 社会関係資本とは様々な定義があるが、本実践では社会における信頼・規範・ネットワークとする（稲葉陽二（2016）ソーシャルキャピタル入門 孤立から絆へ, 中公新書, pp23-39）

【引用・参考文献】

倉橋惣三（2008）幼稚園雑草上, フレーベル館

松田耀（2015）京都市内の元学区における出生率とソーシャル・キャピタルの関係について——GIS を利用した地域間分析——, 同志社大学卒業論文, pp.1-22.

三輪律江（2023）「こどもにやさしいまち」のための環境づくり 公益社団法人こども環境学会編集 第15回こども環境アドバイザー資格講習会テキスト, p26

日本の将来推計人口 2020 <https://www.ipss.go.jp/>（最終閲覧 2023 年 6 月 20 日）

大豆生田啓友（2017）子育てを元気にすることばーママ・パパ・保育者へ, エイデル研究所

仙田満（2009）子どものあそび環境, 鹿島出版会

藪田弘美（2023）第10章 園庭で行われる乳幼児の遊びや活動における環境 永渕泰一郎（編）新・保育内容「環境」ラーニング・ストーリーで綴る 学びの記録, 教育情報出版, pp.87-96.

令和4年度実施 第56回津山市子どもまつり

つやまプレパーク 2022

1回目

10月22日(土)
10時～15時 少雨決行

はじめての人は
ぜひご参加！

つやまプレパーク

11月6日に開催するプレパークを楽しむための、
作って・遊んで・食べる体験会を開催します！
外遊びの専門家「寺田成徳 先生」を講師にお迎えし、
11月6日のプレパーク本番に役立つ種痘や、
「自分と遊ぶ」「みんなと遊ぶ」をテーマとして、
「自由に遊ぶ」ためのヒントを探ります！

★11月6日のプレパークに参加予定の方におすすです。
★裏面の注意事項をご確認ください。

対象 中学生以上
(プレパークに講師のある地域の大人、学生など)
定員 50名・午前のみ託児あり
場所 午前：美作大学
午後：グリーンヒルズ津山
★裏面の地図をご覧ください

締切 **10月14日(金) 17時まで**
申込はこちら▶

読み取れない方は、以下のURLからアクセスしてください。
URL: <https://forms.gle/KUJf8k3tS5Yr13Kc48>

2回目

11月6日(日)
10時～15時 少雨決行

何もないところでも
どやって遊ぶか？

つやまプレパーク

プレパークは、自然のものや「その場にあるもの」で、
子ども連立が自分で考え、「自由に遊ぶ」場です。
子ども連立の仲間たちを交え、自由な発想で挑戦します。
当日は天候不慮のため、雨天中止となります。
思いっきり遊んで、子どもも大人もリフレッシュ！

対象 どなたでも参加できます
定員 100名・託児はありません
場所 グリーンヒルズ津山
★裏面の地図をご覧ください

締切 **11月4日(金) 17時まで**
申込はこちら▶

読み取れない方は、以下のURLからアクセスしてください。
URL: <https://forms.gle/KUJf8k3tS5Yr13Kc48>

主催 津山市子どもまつり実行委員会（津山市子ども参事委員会、NPO法人みよあそび、そなつ津山子ども広場ほか）
共催 美作大学地域生活科学研究所
〒708-8301 津山市山北520 津山市教育委員会次世代育成課
電話 0868-32-2009 メール jisedai@city.tsuayama.lg.jp ※受付時間 平日9時30分～17時15分
問合せ先

[illegible]